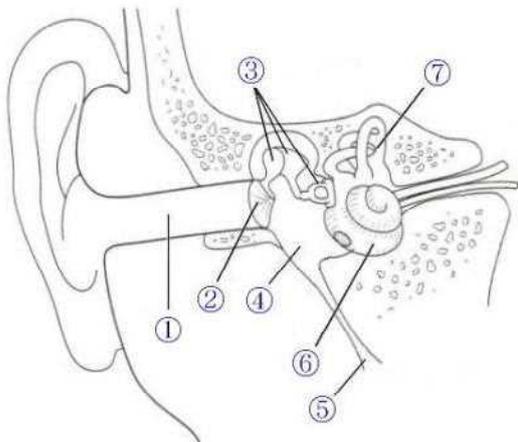


特別支援学校（聴覚障がい領域）専門問題例

例 1 次の図は、耳の構造を表している。(1)・(2)の問いに答えなさい。



- (1) 図中の①～⑦の名称をそれぞれ書きなさい。
- (2) 図中①～⑤の部位に障がいがあるとき、⑥から脳までの音の伝達経路に障がいがあるときの聴覚障がいを、それぞれ何というか書きなさい。

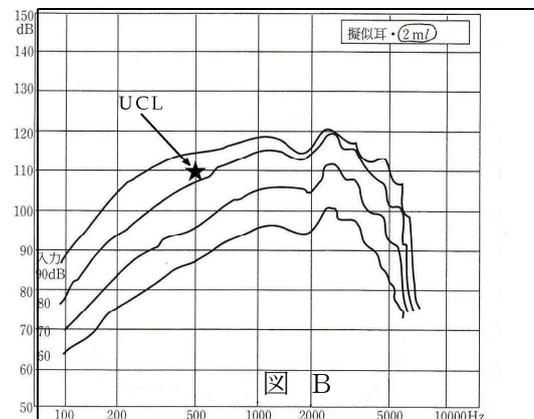
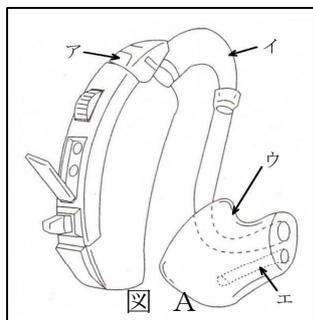
(H29)

例 2 読話指導について、(1)・(2)の問いに答えなさい。

- (1) 読話を促すときに、配慮すべき物理的条件を3つ書きなさい。
- (2) 「右の岸に石がある。」という文の読話は難度が高い。読話指導用例文（単文）として不適切な理由を書きなさい。

(H29)

例 3 図Aは、耳かけ型補聴器を表している。また、図Bは、この補聴器の出力特性を表している。図A・図Bについて、(1)～(5)の問いに答えなさい。



- (1) 図Aのアは音声を入力し、電気信号に変換する部分である。この名称を答えなさい。
- (2) 図Aのイ・ウの名称を、それぞれ答えなさい。
- (3) 図Aのエの部分はトンネル状に穴が開いている。この部分の名称を答えなさい。また、補聴器装用時にどのような効果が期待されるか答えなさい。
- (4) この補聴器の、入力音圧60 dBの時の1000Hzの利得を答えなさい。
- (5) 図B中の、★が装用者のUCL値であれば、どのような機能を使って出力特性を調整するか、その方法を答えなさい。

(H26)

例4 次の図は、語音了解閾値検査の結果を表している。図中の(1)~(4)にあてはまる数字を答えなさい。

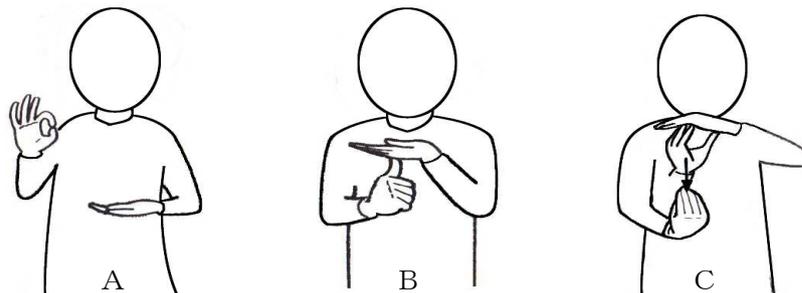
数字の聞こえ方検査用紙(語音了解閾値検査) / 67-S語表用

氏名 **徳島** ○○ 検査 **(右耳)** 年 月 日検査
 左耳 語音了解閾値 (1) dB

聞こえた通り、横に書いてください

1行目	5	2				
2行目	7	4	6	5	2	
3行目	2	7	3	6		
4行目	3	5	2			
5行目	6	3	7		5 4	
6行目	4	6	5	7	8 3	
呈示レベル (dB)	(2)	75	65	55	45	35
明瞭度 (%)	100	100	(3)	(4)	17	0

例5 図A~Cは、『わたしたちの手話 (全日本ろうあ連盟発行)』を参考に、日本の都道府県を手話で表したものである。都道府県名をそれぞれ答えなさい。



(H28)

例6 次の文は、新特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 (平成21年3月告示)「第1章総則」の「第2節 教育課程の編成」「第1 一般方針」の一部である。(①)~(⑥)にあてはまる語句を答えなさい。

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、児童又は生徒に (①) をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、(②) を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、(③)、(④) その他の能力をはぐくむとともに、(⑤) 態度を養い、(⑥) 教育の充実に努めなければならない。

例7 新特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の「第7章 自立活動」について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

- (1) 「第2 内容」「6 コミュニケーション」には、5つの指導内容が示されている。そのうちのコミュニケーションの基礎的能力に関することを指導するに当たって、聴覚に障害がある児童生徒の場合、どのような具体的な課題が考えられるか。課題とそれに対する指導内容を書きなさい。
- (2) 次の文は、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の一部である。(a)~(e)に当てはまる語句を答えなさい。

具体的に指導内容を設定する際には、以下の点を考慮すること。

ア 児童又は生徒が興味をもって主体的に取り組み、成就感を味わうとともに自己を(a)にとらえることができるような指導内容を取り上げること。

イ 児童又は生徒が、障害による学習上又は生活上の困難を(b)・(c)しようとする意欲を高めることができるような指導内容を重点的に取り上げること。

ウ 個々の児童又は生徒の発達の進んでいる側面を更に伸ばすことによって、遅れている側面を補うことができるような指導内容も取り上げること。

エ 個々の児童又は生徒が、活動しやすいように自ら(d)たり、必要に応じて周囲の人に(e)たりすることができるような指導内容も計画的に取り上げること。

なお、専門審査には、この専門分野の問題以外に、基礎免許状の問題もあります。

特別支援学校（聴覚障がい領域）正答例

問題番号	正 答				
例 1	(1)	① 外耳道	② 鼓膜	③ 耳小骨	④ 鼓室
		⑤ 耳管	⑥ 蝸牛	⑦ 半規管	
	(2)	①～⑤	伝音難聴	⑥～⑦	感音難聴
例 2	(1)	(正答例) 距離；話し手と聞き手の距離 ----- 光線；明るさや光の方向 ----- 方向；聞き手にとって話し手の顔（口）が見える角度			
	(2)	(正答例) い列の音が続くため、口形が変わらず語の区切りが分かりづらいこと。い列の口形は、口角が小さいため舌をはじめとする構音器官の動きが分かりづらく、子音の想定がしにくい。			
例 3	(1)	ア	マイク（マイクロフォン）		
	(2)	イ	フック	ウ	イヤモールド(耳型)
	(3)	名称	ベント		
		効果	(正答例) イヤモールド装着時に「音がこもる」とか「密閉感が煩わしい」などの不快感の解消に効果がある。		
	(4)		3 5 dB		
	(5)	調整方法	(正答例) 出力制限装置を使って、最大出力をUCL値以下に抑える。		
例 4	(1)	5 5			
	(2)	8 5			
	(3)	8 3			
	(4)	5 0			
例 5	(1)	奈良県			
	(2)	秋田県			
	(3)	山梨県			
例 6	①	生きる力			
	②	基礎的・基本的な知識及び技能			
	③	判断力			
	④	表現力			
	⑤	主体的に学習に取り組む			
	⑥	個性を生かす			
例 7		課題	(正答例) 聴覚に障害がある場合、聴覚や音声を活用した意思の相互伝達が成立しにくいいため、相手とかかわろうとする態度や技能が育ちにくい。		
	(1)	指導内容	(正答例) 児童生徒の発達の段階に応じて、相手を注視する態度や構えを身に付けたり、あるいは自然な身振りで表現したり声を出したりして、相手とかかわることができるようにするなどして、コミュニケーションを行うための基礎的能力を身に付けさせる。		
		(a)	肯定的	(b)	改善
	(2)	(c)	克服	(d)	環境を整え
		(e)	支援を求め		